

市区町村のがん検診を活用しましょう



ほとんどの市区町村では、一部の負担金のみでがん検診が受けられます。
上手に活用してがんの早期発見・早期治療につなげましょう。

日 本人の死因の第1位である「がん」。早期のうちには自覚症状がないことがほとんどですので、早期発見・早期治療につなげるには、定期的ながん検診の受診が欠かせません。

コロナ禍による受診控えで、初期のがんの発見が遅れるケースが指摘されています。がんが進行すると、身体的・経済的な負担も大きくなります。

市区町村のがん検診はお得です

国は、がんの死亡率を減少させることを目指して、科学的根拠に基づいて効果があると確認された5種類のがん検診を推進しています。これらのがん検診は、健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として、お住まいの市区町村が実施しています。
ほとんどの市区町村では、がん検診の費用の多くを公費で負担しており、無料もしくは一部の自己負担金でがん検診を受けることができます。

※市区町村によって自己負担する金額は異なります。

市区町村でがん検診を受けるには

市区町村から送られる案内やホームページで実施施設や実施時期、予約方法を確認

実施施設へ電話や郵送、インターネットで予約

検診を受診

国が推奨する5つのがん検診

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診、胃部エックス線検査 または胃内視鏡検査	50歳以上 <small>胃部X線検査は40歳以上</small>	2年に1回
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診 および内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	問診、胸部エックス線検査 および喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診および 乳房エックス線検査(マンモグラフィ)	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診および便潜血検査	40歳以上	年1回

お住まいの市区町村の広報誌やホームページでがん検診をチェックしてみよう



検診は当健保組合と市区町村の合わせ技で!

当健保組合では、30歳以上の被保険者に対して、定期健康診断の際に大腸がん、胃がんの検査を実施しています。また、30歳以上の被保険者および被扶養者(配偶者に限る)の方には、郵便による大腸がん、胃がん、子宮頸がんの検査を実施しています(子宮頸がん検査は20歳以上)。当健保組合のがん検診をご利用いただくほか、当健保組合では取り扱いのない検診などは、積極的に市区町村のがん検診をご活用いただきたくお願いいたします。

当健保組合

- 大腸がん
- 胃がん
- 子宮頸がん

市区町村

- 大腸がん
- 胃がん
- 子宮頸がん
- 乳がん
- 肺がんなど

当健保組合と市区町村の検診をうまく活用しましょう。

※市区町村によって異なります。



当健保組合の検診については鉄道弘済会健康保険組合のホームページで確認してください。